

長野県内の小中一貫校について ― 榑川小中学校・両小野小学校の視察から ―

学びの創生・連携支援室

I はじめに

- 令和4年度現在、県内には4校の義務教育学校（公立）が設置されている。（信濃町立信濃小中学校、大田市立美麻小中学校、根羽村立根羽学園、塩尻市立榑川小中学校）
- 諏訪地方でも、諏訪市立上諏訪小・中学校、茅野市立永明小・中学校など、一貫校化の動きがある。
- その他、小中一貫教育導入を検討する市町村も増えてきている。（人口減少・少子化、中一ギャップへの対応など）
- 11月18日（金）に、塩尻市立榑川小中学校、辰野町塩尻市小学校組合立両小野小学校を視察し、両校の校長先生のお話から、小中一貫校のよさや課題について以下にまとめた。

II 塩尻市立榑川小中学校（義務教育学校・施設一体型）

1 義務教育学校のよさ ― 校長先生の第一声「義務教育学校になってよかった」―

□ 小中が同じ校舎で過ごすことで互いの成長を促す

- ・ 運動会の後期（7～9年生）のリレーでは、走る姿を見た前期の放送係児童が思わず「かっこいいーっ！」とアナウンス
- ・ コミュニティ・スクール発表会における前期児童（1～6年生）の発表の質の高まり 「わたしたちもああやって発表したい」
- ・ 後期の生徒が前期の児童の憧れとなり、自分たちの未来をイメージできる
- ・ 「1～3年生にも分かってもらえるように」考える中で、中学生（後期）が合理的配慮について実感をもって学んでいる

□ 義務教育学校ならではの職員配置を活かす

- ・ 義務教育学校ならではの配置基準を活用し、英語専科、理数科専科等の専科教員を配置
- ・ 英語は1～9年生まで専科、算数・数学も全て専科及びTTで行うことができる

□ 榑川地域の文化・自然・歴史を系統性をもって学ぶ

- ・ 前期では、3年生から漆器づくりの体験学習に取り組み、6年生では「ならにこ漆器会社」で販売活動を行う
- ・ 後期では、奈良井宿を中心とした地域振興に取り組む（和装して観光ガイド、協賛金を募り店のキーホルダーや割引券等を作成） 地域・店・学校の「三方よし」を目指す
- ・ 地域連携（コミュニティ・スクール）「地域の中では学校も大きな事業体の一つ」

□ 教職員の協働意識の高まり

- ・ 行事は、運動会は前期の先生が、文化祭は後期の先生が中心に準備
- ・ 様々な課題について、教職員がアイデアを出し合って工夫している
- ・ 時間割は3年間改訂を重ねて現在の形に（チャイムをなくして自由度を高める）
- ・ 一部の教科の授業を複式で行う「パートタイム複式」の取り組み（男女のバランスが悪い学年）



子どもたちによる商品説明が添えられた箸



オープンオフィススタイルの職員室

2 課題

□ 教職員の多忙化の解消

- ・ 小中の業務が重なり、職員会議が終わらない（生徒指導、保育園との連携、高校への提出書類の作成も全職員が関わるため）
- ・ 検討すべき課題が多く、「70点を目指そう」を合言葉に、まずは試行し不具合があれば変えていく

Ⅲ 辰野町塩尻市小学校組合立両小野小学校（保小中一貫教育「両小野学園」・施設分離型）

1 「両小野学園」のよさ

□ 地域（コミュニティ・スクール）の力強い支援

- ・ 子どもの減少を食い止め、学校を存続させたいという地域の危機感から始まった「両小野学園」（平成23年～）
- ・ 塩尻市辰野町組合立両小野中学校、辰野町立小野保育園、塩尻市立北小野保育園との保小中一貫教育を推進
- ・ コミュニティ・スクール（学園運営協議会）の組織が確立（4委員会）されており、ボランティアは保育園～小学校～中学校をとおして同じ方々
- ・ 視察当日もボランティアの方々が活躍（登山、大豆の収穫、スイートポテト作り）

□ 施設分離型でも可能な保・小・中一貫教育

- ・ 「たのめの里」の自然、歴史・文化、産業、人々を材にした“ふるさと学習”を中学校でのアントプレナー学習（地域貢献学習）につなげる
- ・ 小中共通の学習スタイル「両小野スタンダード」
- ・ 多様な交流学習（保育園児が小学校の「たのめっこ祭り」に参加／中学校文化祭へ小学生の作品を展示／小中共同での地域の美化活動／保・小・中「たのめの里」の子ども全てが集う「両小野学園音楽会」／6年生の中学校登校（2週間の中学校での授業、部活動への参加）



たのめの里ボランティアルーム

2 課題

□ 意識を継続していくことの難しさ

- ・ 小中の先生方が顔を合わせる機会が少ない（小中がそれぞれ所属する教育会が異なる 東筑摩塩尻教育会／上伊那教育会）
- ・ 先生方の異動、協議会メンバーの入れ替わり
- ・ コロナ禍による活動の制限
- ・ 今後、年4回の小中合同職員会議において、小中相互の授業参観や保育園の園長先生の参加などを検討

Ⅳ まとめ — 学びの創生・連携支援室における今後の検討課題 —

1 施設一体型小中一貫校（義務教育学校）についての研究

- ・ 施設一体型小中一貫校（義務教育学校）のよさ（メリット）を活かす学校づくり
- ・ 先進校への学校視察等

2 「施設分離型」において可能な一貫教育の検討

- ・ 両小野学園や先進的に取り組む自治体から学ぶ
- ・ 「小中学びの連携」をさらに充実し、「一貫教育」につなげていく
- ・ 「おかや絹結プログラム」を核にした幼保小の連携や、幼保小の交流活動の充実